



令和元年5月29日
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

砂防施設（富士山大沢川遊砂地）で土石流を止めました。

5月21日の大雨で、富士山大沢川では土石流が発生しましたが、砂防施設（大沢川遊砂地）が効果を発揮したため、被害はありませんでした。大沢川遊砂地で捕捉した土砂量は約17,000立方メートルでした。

1. 内容（別紙1）

富士山周辺では、5月21日からの大雨により、富士宮市で土砂災害警戒情報が発表され、大沢川上流の大滝雨量観測局で時間最大雨量29mm（5月21日8時～9時）、累加雨量163mmを観測しました。

富士砂防事務所では防災体制をとり、監視カメラによる監視等を行っていましたが、9時25分頃に岩樋観測所の監視カメラで土石流の発生を確認しました。その後の調査で大沢川遊砂地が効果を発揮したため、被害が無い事を確認しました。

また、大沢川遊砂地をドローンにより測量を行ったところ、堆積した土砂量は約17,000立方メートルである事が分かりました。

2. 配布先：山梨県政記者クラブ、静岡市政記者会、富士宮記者会、富士記者クラブ

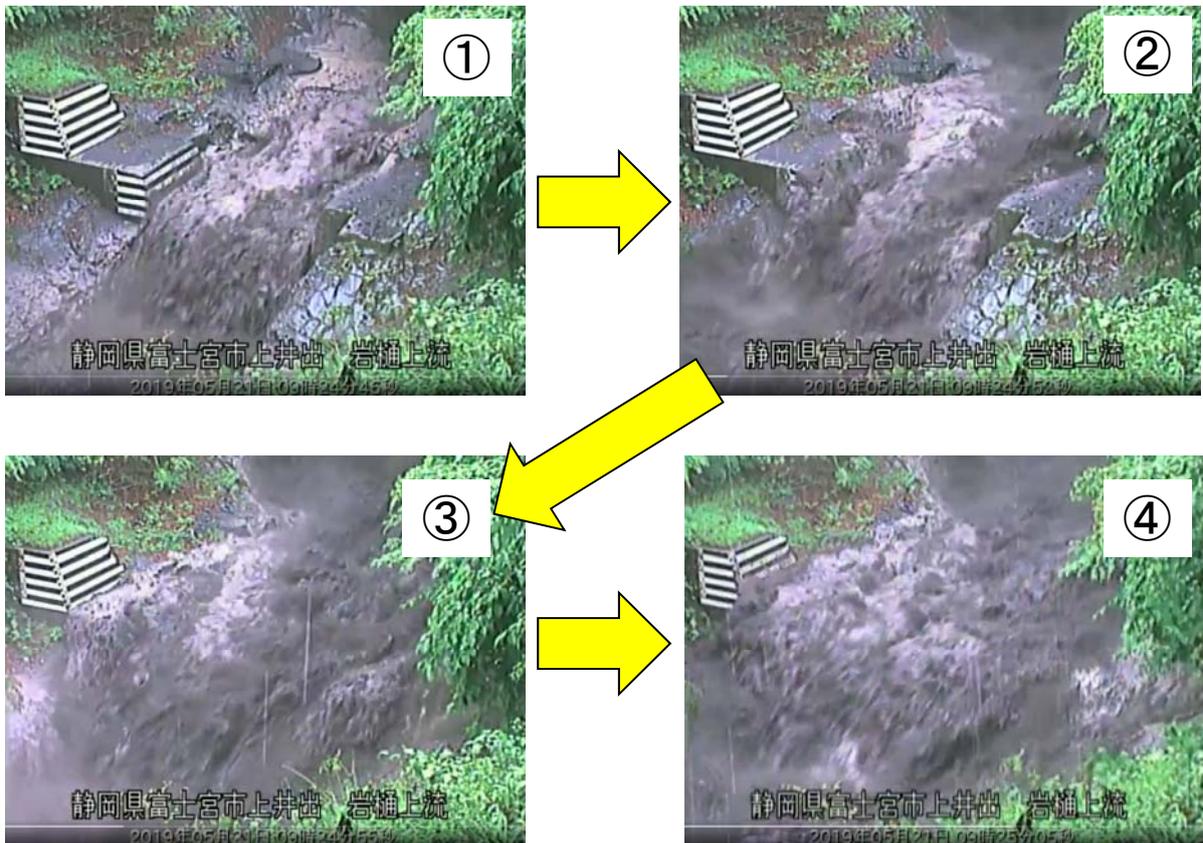
【問合せ先】 国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所
（技術）副所長 西原 均
調査課長 荒木 孝宏
TEL 0544-27-5221（代表）

1. 土石流発生状況

別紙-1

前線の影響により、8時25分 静岡県富士宮市において土砂災害警戒情報が発表。
大滝雨量観測局にて最大時間雨量 29mm/hを記録。

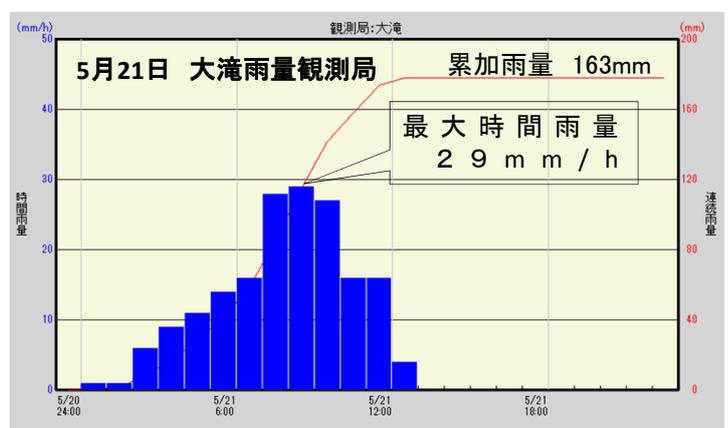
富士山源頭部を水源とする大沢川では土石流が発生。最大流量は約90m³/s。



雨量状況



雨量状況(気象庁レーダー)



雨量状況(大滝雨量観測局)

2. 大沢川の土石流と、遊砂地の効果

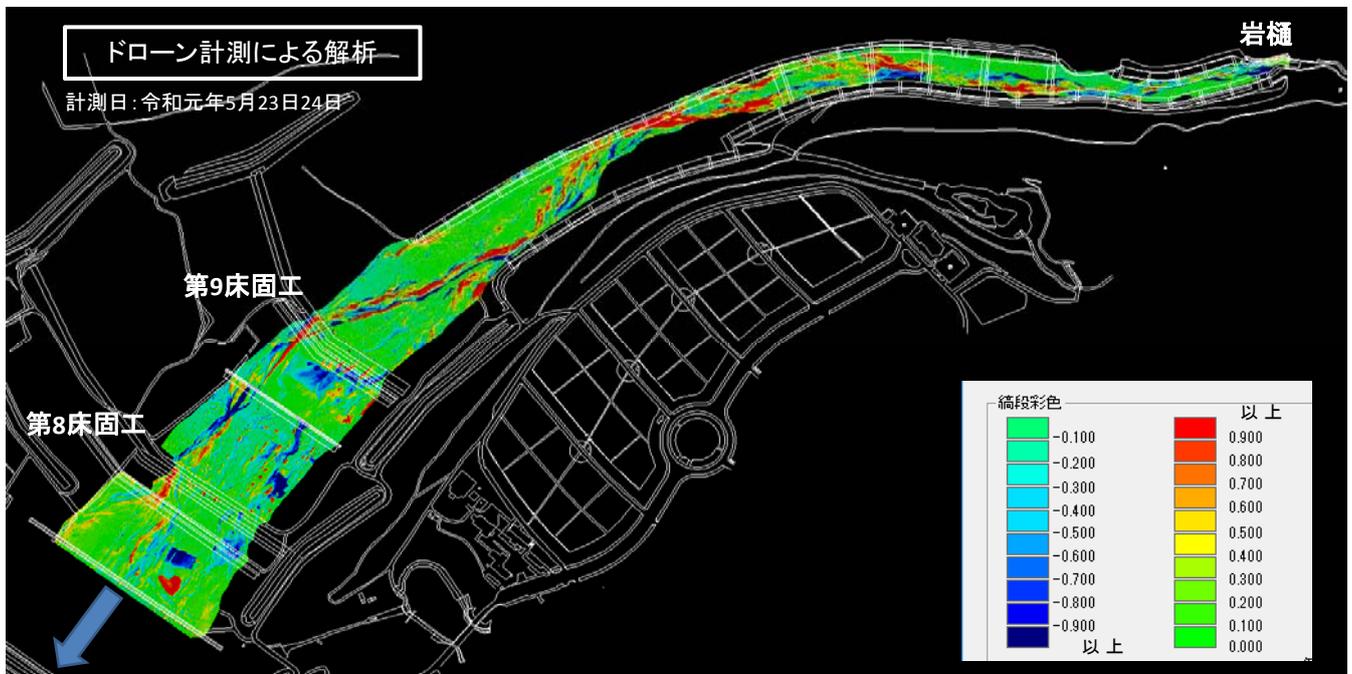
5月21日の大雨で、富士山大沢川では土石流が発生しましたが、砂防施設(大沢川遊砂地)が効果を発揮したため、被害はありませんでした。

捕捉した土砂量は大沢川遊砂地内において約1.7万m³

位置図



3. ドローン写真による堆砂量解析



大沢川遊砂地

土砂捕捉量 : 約1.7万m³

4. SNS(Twitter)を活用した災害情報発信

○富士砂防事務所では、昨年1月19日にTwitterを開設。
Twitterで注意喚起を行うとともに、土石流の動画を公開



国土交通省 富士砂防事務所
@mlit_fujisabo

フォローする

昨日の大雨で、富士山大沢川では土石流が発生しましたが、砂防施設（大沢川遊砂地）で土石流を捕捉したため、被害はありませんでした。現在、捕捉した土砂量を調査しています。



678件のリツイート 949件のいいね



5月22日にツイートし、5月28日までの5日間で以下のとおり

インプレッション ※1	92,370
メディアの再生数	24,749
エンゲージメント総数 ※2	6,132

※1: ツイートが、ユーザーのタイムライン上に表示され、目に触れた回数

※2: ユーザーがツイートに反応した回数



ツイッターやっています。
富士砂防事務所
https://twitter.com/mlit_fujisabo